

日本海ダクト 最大級の大オ - プン!

2000年 6月18日 ~ 22日 JG0TEV 中村 豊

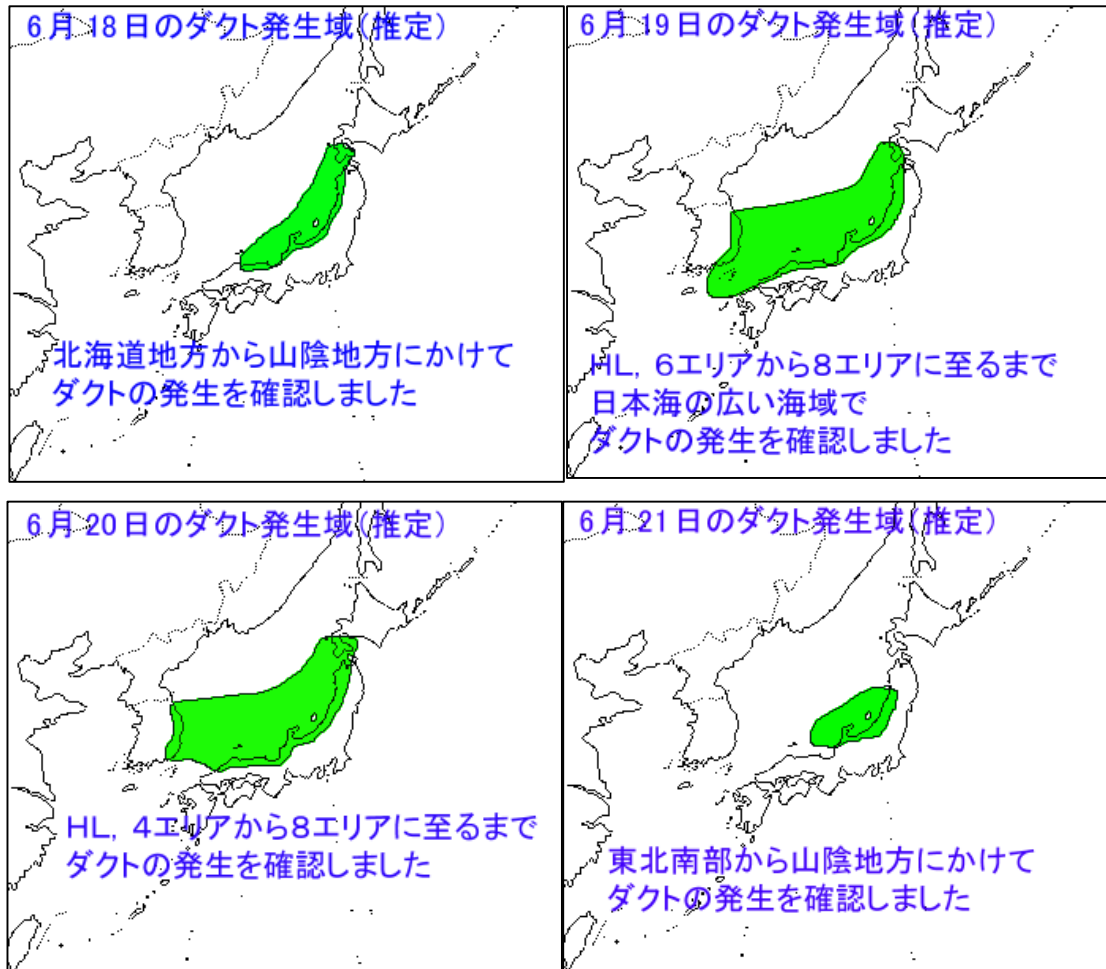
1. 気象解析

6月16日から17日にかけてのオ - プンに続いて、18日から22日にかけても日本海ダクトのビックリオ - プンを確認しました。今回のオ - プンは期間が長く規模も大きかったことが特徴です。

ダクトによるオ - プン規模の最大時には、HL, 6エリアから8エリアに至る日本海のほぼ全域でオ - プンとなり、さらには長野県などの内陸部や東北地方の太平洋側などとも交信が成立する状況となりました。

規模、強さとも最大級だったと言えます。

もちろん、プリアンプの使用や高出力での交信は全く必要のない状況で、ハンディ機+ロッドアンテナでの交信も成立しました。



18日から22日に至る期間の中では、地上天気図および高層天気図において気圧の上昇や、等高度線によって表される高度の著しい上昇は見られません。

しかし、15日から17日までのオ - プン時の際に高度が大きく上昇しており以後もこの状態が継続していったことによってこれらの要素はそろっていたものと考えます。

(6月15日~17日のオ - プンに関するレポートを参照下さい)

2.主な移動運用交信結果

6月18日 新潟県三島郡寺泊町移動より西方面に対して運用 / 交信結果

時間	相手局	相手局運用地	レポ - ト	備考
17:24	JE9EQN	富山県西礪波郡福光町	59(59)	交信距離 約 194Km
17:43	JE9KVH	石川県金沢市	51(55)	交信距離 約 211Km
17:52	JH90IV	石川県小松市	55(55)	交信距離 約 236Km , 2段G P

6月18日 新潟県西蒲原郡岩室村移動より西・北方面に対して運用 / 交信結果

時間	相手局	相手局運用地	レポ - ト	備考
18:26	JM7BWU	秋田県秋田市	58(59)	交信距離 約 249Km
18:44	JK8RDR/8	北海道松前郡松前町	58(55)	交信距離 約 427Km

6月19日 新潟県長岡市移動より西方面に対して運用 / 交信結果

時間	相手局	相手局運用地	レポ - ト	備考
19:38	JL4SEM	島根県簸川郡斐川町	59(53)	交信距離 約 582Km 18日は4 - 8エリア間オ - プンした
20:12	JE9ULM	富山県小矢部市	59(57)	交信距離 約 188Km
20:36	J14UOH	島根県八束郡東出雲町	57(53)	交信距離 約 554Km
20:45	JE4JFP	島根県松江市	54(53)	交信距離 約 561Km
20:55	HL2XTS	韓国江原道江陵市	59(53)	交信距離 約 850Km
21:03	JP6EWG	長崎県上県郡上対馬町	58(54)	交信距離 約 904Km
22:16	JR8KYL	北海道松前郡松前町	53(52)	交信距離 約 455Km

6月20日 新潟県西蒲原郡岩室村移動より各方面に対して運用 / 交信結果

時間	相手局	相手局運用地	レポ - ト	備考
19:29	JK8QHR	北海道松前郡松前町	59(54)	交信距離 約 427Km
19:37	HL2XTS	韓国江原道江陵市	59(53)	交信距離 約 852Km
20:26	JL4EOM/4	鳥取県気高郡青谷町	59(59)	交信距離 約 500Km 19日は宮城県と交信できた
20:36	JM4XCI/4	鳥取県気高郡青谷町	59(59)	交信距離 約 500Km
22:15	JN7JRT	秋田県秋田市	59(59)	交信距離 約 249Km
22:25	JR4HBM	島根県出雲市	56(59)	交信距離 約 609Km
22:39	JM7EPF	秋田県由利郡象潟町	59(59)	交信距離 約 190Km

(特記)

20:34	JL4EOM/4	鳥取県気高郡青谷町	59(51)	交信距離 約 500Km, TEVはハンディ機,500mW,ロッドアンテナで交信
20:42	JM4XCI/4	鳥取県気高郡青谷町	59(53)	交信距離 約 500Km, TEVはハンディ機,500mW,ロッドアンテナで交信
21:44	JR8KYL	北海道松前郡松前町	59(41)	交信距離 約 427Km, TEVはハンディ機,500mW,ロッドアンテナで交信

6月21日 新潟県西蒲原郡岩室村移動より西方面に対して運用 / 交信結果

時間	相手局	相手局運用地	レポ - ト	備考
21:25	JR00CI/7	山形県鶴岡市モ - ビル	57(55)	交信距離 約 143Km
21:43	JA9SNG/9	石川県松任市モ - ビル	58(53)	交信距離 約 241Km
22:02	JA9YX	石川県金沢市	56(53)	交信距離 約 232Km

レポ - トの()内の数字は相手局から送っていただいた受信レポ - トです。

上記のほかに、バンド内ワッチ状況などから

22日も短時間ながらダクト発生により0 - 7エリア間のオ - プン状態を確認しました。

< 運用設備 >

運用設備 /KENWOOD TM-455(プリアンプは使用していません)/10W/430MHzFM/
自作 K1FO 22エレ2列1段

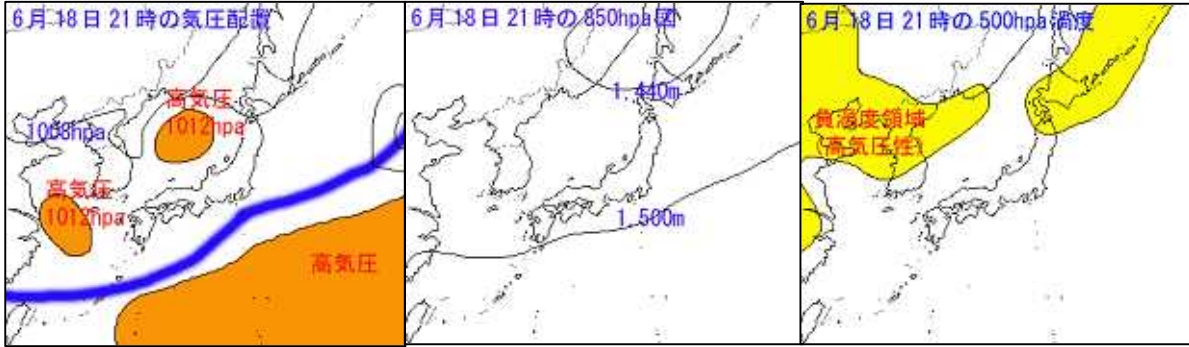
3.考察～今回のオ - プンについて解析する

地上天気図、850hpa等高線図、500hpa負渦度領域の移り変わりからダクトの発生を解析検証

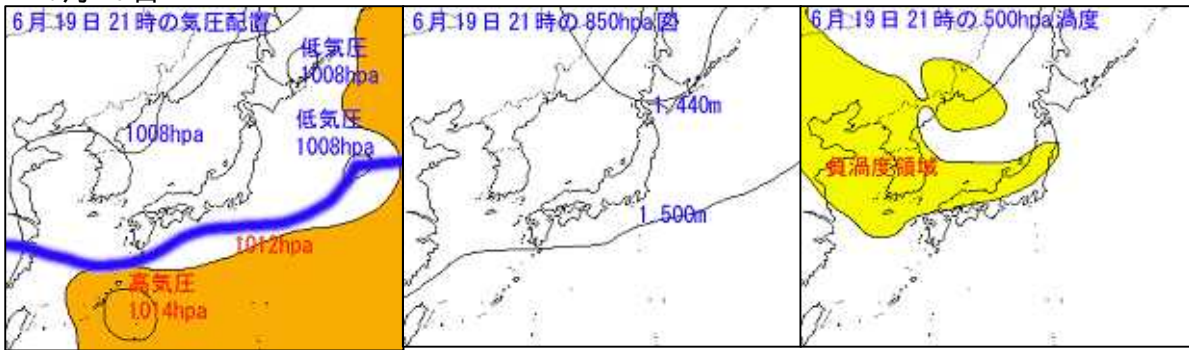
今回のオ - プンは期間中に高気圧の勢力が強まったような形跡は見られません。

つまり、「春や秋によく見られる移動性高気圧によるオ - プンとは異なったオ - プン」で、「夏型に近いオ - プンの一例」といえます。

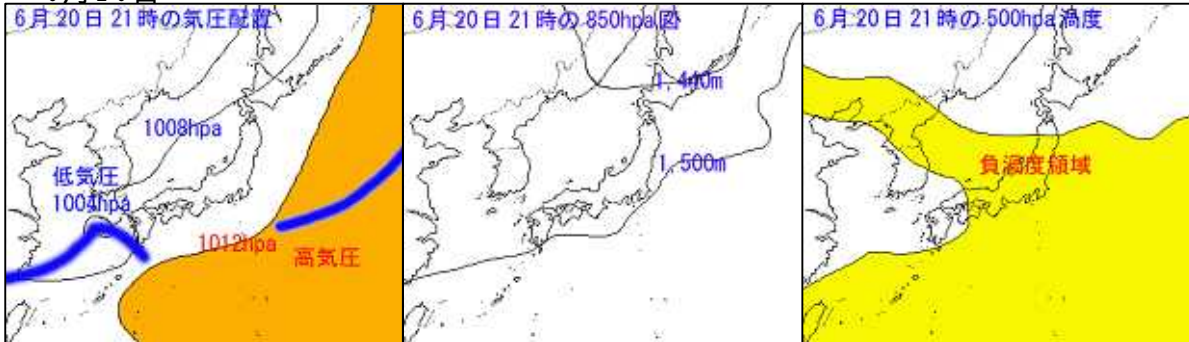
< 6月18日 >



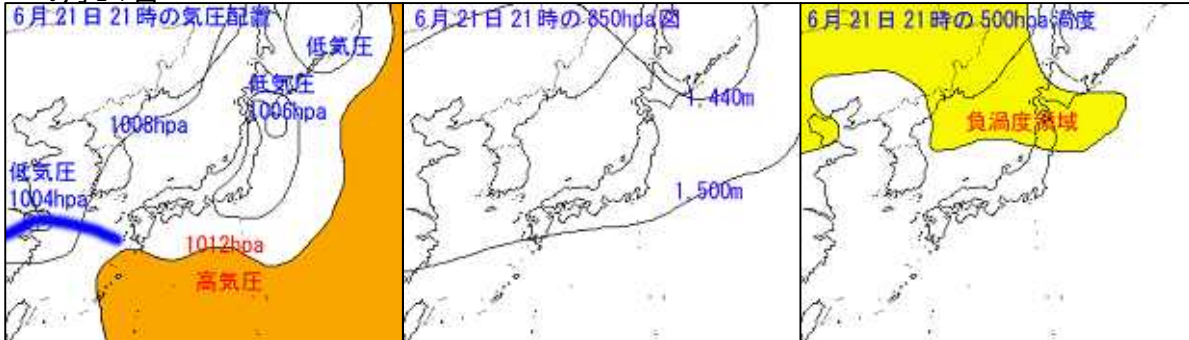
< 6月19日 >



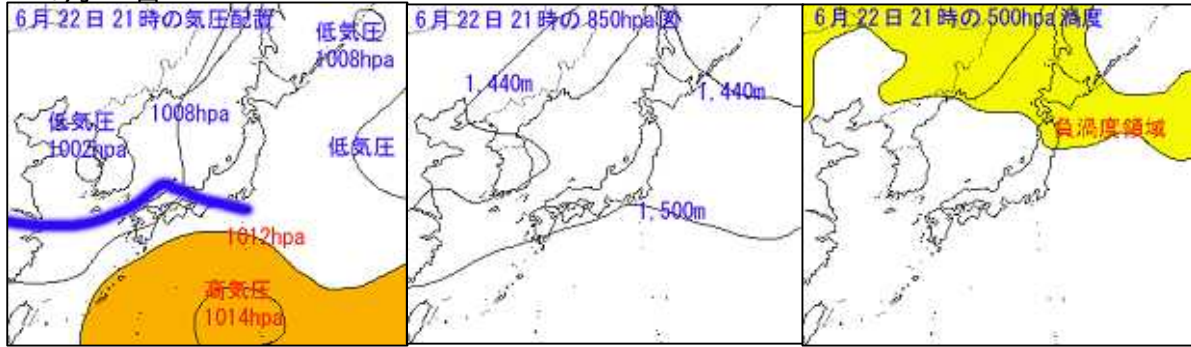
< 6月20日 >



< 6月21日 >



< 6月22日 >



今回のダクト発生のポイントは何か・・・

6月15日以降、上空の高気圧に覆われ続け晴天が続いたことを踏まえて、地上(海上)付近の湿った空気と、上空の乾燥空気が層を形成したことによってダクト伝搬が可能となりました。そのシナリオは次の通りです。

14日～17日のオ - プンの気象変化を踏まえた上で...

(6月15日～17日のオ - プンに関するレポートを参照下さい)

17日の天気の流れによって湿った空気に覆われましたが、天気の回復とともに上空から乾燥状態へと向かいました。

18日以降、日中の気温上昇によって地上(海上)付近の気温は上昇によって水分を補いましたが、夕方以降の気温低下によって湿度の高くなる現象が生じた。

一方上空では高気圧に伴う乾燥空気による下降気流によって、逃げ場を失った地上(海上)の空気は日を追うごとに水分を多量に含んでいきました。(ダクト伝搬の環境の形成)

このことは18日、19日、20日の移動運用の実施によって毎日確認し、また写真撮影によってその様子が明確に写し出されました。

(標高300～500mの移動運用地点では乾いた空気、地上に降りると一気に湿った空気を実感しました)

この状態は20日にピ - クを迎え、21日以降は徐々に解消に向かいました。

それに伴ってダクト発生規模や強さも小さく、弱くなっていき、22日には18時～20時頃にかけて短時間で弱いダクトを確認して終焉を迎えました。

22日、22時過ぎ、やがて長岡市では弱いながら雨が降り出しました。

4.最後に

15日から約一週間続いた日本海ダクトの出現と移動運用の日々は静かに幕を閉じました。

期間中、お声がけいただきました各局に対しましては、あらためてお礼を申し上げます。

次回もダクトの出現とともに波の上でお会いすることを楽しみにしています。